中国：資本、一族の資産、一帯一路

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

中国はシンガポールにとって最大の貿易相手国であり、最も重層的な関係を持つ国です。シンガポール人の多くは、福建省と広東省の港から渡ってきた移民の子孫です。そのジャンク船、送金業者、銀行の歩みは、本書の第A部と第B部で19世紀から20世紀初頭にかけてたどってきました。現代の関係は、それとは異なる種類のものです。それは都市国家と大陸国家との関係であり、小規模な開放経済と世界第2位の経済大国との関係であり、コモン・ローの上に築かれた金融センターと、今なお国境を越える資本移動を管理している国家との関係です。10年以上にわたり、シンガポールは中国にとって最大の外国投資国であり、中国はシンガポールにとって最大の貿易相手国です。現在では、中国企業、中国の一族の資産、そして中国の国家資金が、1990年に外交関係が樹立された当時には考えられなかった規模でシンガポールを経由しています。

本章では、この関係を金融センターの視点から検討します。まず、歴史的なつながりと、1978年の鄧小平の訪問から今日のパートナーシップに至る外交の道のりを取り上げます。次に、シンガポールを海外展開の拠点とし

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

てきた中国企業、資産を、そしてしばしば自らをもシンガポールに移してきた中国の一族、さらに一帯一路構想とインフラ・ファイナンスを扱います。最後の節では、中国関連のビジネスが銀行、信託会社およびアドバイザーにもたらすコンプライアンス上の問題を取り上げ、続いてジュネーブおよび香港との比較を行います。

ジュネーブ巻は、その第I部をジュネーブとアフリカとの関係に充てています。そこでは、コモディティ取引、アフリカのエリート層の資産、不正資産の返還、そして金融と外交の新たな架け橋が扱われています。この比較は示唆に富むものです。ジュネーブの地域的な関係の相手は、多くの国から成る大陸であり、その資源はスイスの商社を経由し、そのエリート層は長年スイスの銀行に資金を預けてきました。これに対し、シンガポールにとって最も重要な地域的関係の相手は、大陸規模の単一の国家です。その国家は、シンガポールにとって最大の顧客であると同時に、投資家や顧客の供給源であり、政府間プロジェクトのパートナーであり、さらに米国との対立によって金融センターが活動する環境を形作る地政学的大国でもあります。

要点

シンガポールと中華人民共和国は1981年に通商代表部を相互に開設し、1990年10月3日に外交関係を樹立しました。これは、鄧小平が1978年11月にシンガポールを訪問してから10年以上後のことです。2013年以降、中国はシンガポールにとって最大の貿易相手国であり、シンガポールは投資フローで見て中国にとって最大の外国投資国です。蘇州（1994年）、天津（2007年）、重慶（2015年）の3つの政府間プロジェクトは、シンガポールの都市計画と規制の経験を中国にもたらし、2013年以降のシンガポールでの人民元クリアリングを含む金融協力の経路となりました。2010年代後半以降、中国のテクノロジー企業、起業家、一族は、シンガポールを地域展開の拠点として、資産のストラクチャリングの場として、そして居住地として利用してきました。この動きは2025年に加速し、同年には固定資産

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

投資のコミットメントにおいて中国企業が米国企業を上回りました。同じ資金の流れは、資産の源泉、中国の税制および外国為替管理規制、米国の輸出管理、そして制裁に関するコンプライアンス上の問題を提起します。2023年のマネーロンダリング事件は、これらの問題を鮮明に浮かび上がらせました。

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com